



施設DATA



- 所在地：栃木県栃木市城内町 2-17-23
- 電話：0282-21-8808
- 類型：地域密着型特別養護老人ホーム
- 建築構造：鉄筋コンクリート造
- 延床面積：2,229.30㎡



佐々木剛常務理事・総合施設長(右)と古口秀子施設長



①ユニットの入り口はさながら和風旅館の雰囲気 ②食事はユニットごとに配膳。全員常食をめざしている ③職員手彫りの表札。ユニットごとに工夫が凝らされている ④お手洗いの前には、行灯風のライトを設置。夜間でも迷わない ⑤ベッド以外はすべて入居者が持参 ⑥ユニットの風呂場はすべて個浴。シャンプーなども使い慣れたものを使用する ⑦併設のデイサービスは洋風で、雰囲気が大きく異なる ⑧食事、遊び学習支援を取り入れた子ども食堂を実施

地域密着型ということもあり、住民との交流も大切にしている同ホーム。併設のデイサービスの一角は地元の老人クラブの人に開放するなど、自然に地域住民が訪問できるようにしている。また、今年8月からは月に1度、地元農協やボランティアなどの協力のもと、子ども食堂を同ホームの一角で開催。今後は入居者との交流などにもつなげていく構えだ。

「どのよう暮らししていきたいのか、入居前の生活の営み方をお聞きし、入居者の自己決定を最優先にした環境づくりを心がけています。在宅の延長に当ホームがあるのです」と話すのは、同法人常務理事でもある佐々木剛総合施設長。特養とはいえ、施設ではなく「ケア付き住宅」と考えている。そのため、居室にはベッドのみ用意。自宅ですべて使っていたたんすを持参してもらおうなど、限りなく自宅に近い部屋づくりに努めている。たとえば、部屋番号も「3番地7」と表示。ここにも自宅の延長という理念が表れている。

また、面会時間の設定もしていない。「居室はアパートの一室だと見なし、気軽に訪れてください。自分がやってもらいたいと思うことを、親御さんにしてあげてください」と、古口秀子施設長は家族へのアプローチの仕方を説明する。開錠時間が長いので、時には入居者が外に出てしまうこともあるが、「居室と認識していないから、出歩くのでは？」といった発想で、なじみのあるものを多く置いて「自室」と認識してもらおうようにするという対応を考える。

シヨートステイを含めて全室個室のユニットケア型。ユニットごとに担当スタッフを配置し、インテリアなども各ユニットに任せているため、職員はケアだけではなく生活空間全体をつくることを日々模索しながら、業務に励んでいる。「いいケアを提供するということは、すなわち職員の質を上げることだと捉えています」と、佐々木さんは指摘する。研修を多く実施して技術を磨くほか、その人らしい生活を送ってもらうために何が必要か、常に考えるように職員には指導している。



vol.162

◎社会福祉法人スイートホーム  
地域密着型特別養護老人ホーム「蔵の街ひまわり」

## 自宅の延長としての 特養のあり方を提案する

旧都賀町(現栃木市)を中心に、「福祉の創造」を運営の基本精神に高齢者福祉に尽力してきた社会福祉法人スイートホーム。これまでの事業のノウハウをさらに広く地域に還元したいと、地域密着型特別養護老人ホーム「蔵の街ひまわり」を2014年に開設した。

撮影：下山展弘



リビングにはふんだんに木を使用。家具も、在宅を意識できるものをチョイス

入居前の生活を重視した  
環境づくりに注力

「どのよう暮らししていきたいのか、入居前の生活の営み方をお聞きし、入居者の自己決定を最優先にした環境づくりを心がけています。在宅の延長に当ホームがあるのです」と話すのは、同法人常務理事でもある佐々木剛総合施設長。特養とはいえ、施設ではなく「ケア付き住宅」と考えている。そのため、居室にはベッドのみ用意。自宅ですべて使っていたたんすを持参してもらおうなど、限りなく自宅に近い部屋づくりに努めている。たとえば、部屋番号も「3番地7」と表示。ここにも自宅の延長という理念が表れている。

また、面会時間の設定もしていない。「居室はアパートの一室だと見なし、気軽に訪れてください。自分がやってもらいたいと思うことを、親御さんにしてあげてください」と、古口秀子施設長は家族へのアプローチの仕方を説明する。開錠時間が長いので、時には入居者が外に出てしまうこともあるが、「居室と認識していないから、出歩くのでは？」といった発想で、なじみのあるものを多く置いて「自室」と認識してもらおうようにするという対応を考える。